神戸新聞社　令和6年3月17日（日）　朝刊

カルテ KARTE Q&A

乳幼児に肺炎などを起こす「ＲＳウイルス感染症」。誰もがかかるありふれた感染症だが、高齢者が感染すれば重症化する恐れがあるという。国内で初めて承認された成人用ワクチンの効果について、内科医に聞いた。

ＲＳウイルス感染症

高齢者、妊婦向けワクチン認可

西口郁医師

ＲＳウイルス感染症は乳幼児が発症し、発熱や胸がゼーゼーする「喘鳴」、呼吸困難を伴う急性細気管支炎、肺炎などを起こすウイルスというイメージが強いと思います。2歳までにほぼ100％の人がかかると言われていますが、実は全年齢で、生涯に何度でも感染します。

感染者のせきやくしゃみによる飛沫感染、ドアノブなどについたウイルスが手について口や鼻から侵入する接触感染があります。潜伏期間は4～6日で、いったん発症すると回復までに7～12日と長くかかります。症状は発熱や鼻汁などが続き、多くは軽症で自然治癒します。

初めて感染する乳幼児のうち約3割ではせきが悪化し、喘鳴や呼吸困難になる恐れがあります。

加齢で免疫力が低下した高齢者では、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）やぜんそく、慢性心不全などが悪化し、呼吸困難が進んで入院や死亡につながる場合があります。米国のデータでは、入院が必要になった高齢者の約半数が肺炎を起こし、致死率もインフルエンザと同程度と報告されています。

ウイルスそのものに効く治療薬はなく、対症療法が基本になります。ワクチン接種による予防が期待でき、このほど、2種類の成人用ＲＳウイルスワクチンが相次いで承認されました。

一つは、60歳以上の基礎疾患のある高齢者を対象にしたワクチン「アレックスビー筋注用（商品名）」で、呼吸器症状や入院が必要になるような重症化を、高い有効率で予防します。もう一つは、妊娠後期の妊婦を対象としたワクチン「アブリスボ筋注用（同）」で、接種により母体で作られた抗体が胎盤経由で赤ちゃんに移り、新生児や乳幼児の罹患と重症化を防ぐとされています。

詳しい情報はかかりつけの医師にお問い合わせください。

（兵庫県医師会予防接種委員会、西口郁＝神戸市東灘区、西口医院）

◇第1、3、4日曜に掲載します。